

地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAVCEI 小委員会 (第 25 期・第 2 回)

議事要旨

1. 日時 令和 4 年 10 月 14 日 (金) 16:00~17:30
2. 会場 ハイブリッド開催  
遠隔会議 (ZOOM)  
現地会場: 静岡県三島市民文化会館第 1 会議室
3. 出席者: (委員): 中田節也 (防災科研)・石塚 治 (産総研)・市原美恵 (東大地震研)・上田英樹 (防災科研)・清水 洋 (九大大学院)・山岡耕春 (名大大学院)・中川光弘 (北大大学院)・西村太志 (東北大大学院)・森田裕一 (東大地震研)  
(オブザーバー): 中道治久 (京大防災研)、藤田英輔 (防災科研)  
欠席委員: 井口正人 (京大防災研)、篠原宏志 (産総研)

4. 配布資料

- 資料 1 : 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAVCEI 小委員会 (第 25 期・第 1 回) 議事要旨  
資料 2 : 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 活動報告  
資料 3 : 2022 年 10 月 12 日 火山学会 理事会 報告  
資料 4 : IAVCEI の最近の動向  
資料 5 : 次世代火山研究・人材育成総合プロジェクトの実施状況 (概要)  
資料 6 : 火山機動観測実証研究事業  
資料 7 : 今後の会議予定

5. 議事概要

(1) 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会の報告

中田委員長より、地球惑星科学委員会 IUGG 分科会の最近の活動について報告があった。今年度はまだ開催しておらず 12 月に 3 回目を開催予定で、2023 年 IUGG ベルリン大会の受賞者の推薦状況や各分科会の活動が報告される予定である。

山岡委員より、日本学術会議ではこれまでの文部科学省のロードマップにつながる大型研究計画に関するマスタープランではなく、別の位置づけでマスタープランを作ることになったとの説明があった。

(2) IAVCEI からの報告

藤田氏より、IAVCEI の最近の動向について報告があった。IAVCEI が UN' s Global Early Warning Systems Initiative やイタリア火山学会と MOU を結ぼうとしていることや、またすでに他の団体と結んでいること、今後、各団体からの要請のためにガイドラインを HP 等で周知する予定であることが報告された。IAVCEI の各賞の推薦状況や受付予定について報告があった。

中田委員長より、日本人のプレゼンスが低くなっているので日本人の論文をきちんと引用することやレビューアーになったときは日本人の論文引用を勧めることを呼び掛けたほうが

いいとの意見があった。

### (3) 火山学会理事会報告

中道氏より、2022年10月12日に開催された日本火山学会理事会について報告があった。理事会では、本委員会の構成メンバーと本小委員会について報告したこと、AOGS2028の日本開催に向けて招致活動を進めていることなどの説明があった。

### (4) IUGG2023への代表者派遣について、IAVCEIの次期役員について、

中田委員長から、IUGG2023への代表者派遣について説明があった。代表者は、IUGG分科会の委員であることが優先されていることから、中田委員長が代表として派遣されることになった。

中田委員長から、IAVCEIとの情報共有を維持するため日本から引き続きIAVCEIの次期役員に立候補したほうがいいとの意見があった。意見交換の結果、現副会長の井口委員が会長へ、産総研の下司氏が役員に立候補することを呼びかけることにした。

### (5) WEBを活用した国際的活動と情報発信

中道氏より、規模の大きな噴火発生時などに、各国がIAVCEIのウェビナーを使った情報発信をしていることから、日本も火山災害が発生した際にウェビナーを使った情報発信をしたほうが良いので、あらかじめ体制を作っておいたほうが良いとの意見があった。

山岡委員より、ある程度、普段から話題もとに情報発信したほうが良いとの意見があった。

西村委員より、火山学会にウェビナーを使った情報発信する体制がないので、企画する体制を作っておいたほうが良いとの意見があった。

藤田氏より、火山機動観測実証事業の中で国際的な情報発信を機能させようとしているが動いていないので、火山学会の体制と一緒にしたほうが良いとの意見があった。

中田委員長より、中道氏に体制のたたき台の作成の依頼があった。

### (6) 次世代火山研究・人材育成総合プロジェクトの動向

清水委員と西村委員より、「次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト」について報告があった。今年度が7年目で8月に中間評価を受けた。次世代火山研究推進事業の方でまとまった成果を出そうとしており、状態遷移図やイベントツリーを作ってみることにしている。次世代火山研究推進事業の後継プロジェクトを提案する時期に来ている。火山研究人材育成コンソーシアムについては、コロナで2年間海外での実習はできなかった。今年度はストロンボリで行う予定だったが山火事のため中止した。来年度は、リペペ先生の退職の時期に重なっているため、ストロンボリで実施できるか不明である。INGVは類似のサマースクールをやろうとしている。南洋理工大学とのオンラインの研究発表会を2月に行う予定である。

藤田氏より、3月下旬に伊豆大島にてACVを行う準備をしており、来年度はインドネシアで行う予定で、再来年度は韓国の済州島で行う予定との説明があった。

### (7) 火山機動観測実証研究事業

森田委員より、火山機動観測実証研究事業について報告があり、霧島山でテスト観測と機材管理システムについて説明があった。

(8) 今後の会議予定

添付の資料の他に特に追加はなかった。

(9) その他の活動報告

石塚委員より、2023年2月にサントリーニ島周辺でIODPの掘削航海が予定されており、日本から3名参加予定との報告があった。来年度は、アイスランドの掘削があるが日本から火山に特化した提案はされていない。JAMSTECは、トンガ噴火に関してNIWAとMOUを結んで、ニュージーランドと調査公開を行った。

市原委員より、トンガの噴火を受けてSATREPSに応募する予定で、トンガ、フィジー、バヌアツの3か国との締結に向けて進みつつあるとの報告があった。事業内容は、衛星を使った広域での火山監視や、噴火履歴調査、古津波の研究、大学と連携した火山の講義などである。

(10) その他

次世代火山研究・人材育成総合プロジェクトの次のプロジェクトについて、意見交換を行った。以下の意見が出された。

- ・ 清水委員より、次期プロジェクトは今と同じものではなく、これまでの実績をもとにして新しいプロジェクトを提案する必要があるとの意見があった。
- ・ 人材育成プロジェクトは防災関係機関の人材育成においても評価されており、気象庁に博士号を持つ職員が増えることが重要との意見があった。
- ・ 中川委員より、次期プロジェクトについては内容の検討を進めておらず、地質分野の研究者に働きかけした段階であるとの説明があった。
- ・ 藤田氏より、火山研究推進委員会で議論する必要があるとの意見があった。
- ・ 市原委員より、次世代火山研究・人材育成総合プロジェクトや建議の研究に参加しているのは火山分野の研究者の一部なので、火山分野全体を見ていく必要があるとの意見があった。
- ・ 森田委員より、今のプロジェクトにおける不足部分を考慮してフォーラムで議論したほうが良いとの意見があった。